



**TM-15**  
オウレンゲドクトウ

漢方製剤

承認番号	(61AM)第4209号
薬価収載	1987年10月
販売開始	1987年10月
再評価結果	2014年4月

# 黄連解毒湯 エキス顆粒T

貯法:「取扱い上の注意」の項参照  
使用期限:容器又は外箱に表示

## 《組成・性状》

### 1. 組成

本品7.5g中

日局オウゴン	3.0g
日局オウレン	2.0g
日局オウバク	2.0g
日局サンシシ	2.0g

上記の分量で混合した生薬の水製乾燥エキス(日局黄連解毒湯エキス)1.6gを含有する。

添加物として、乳糖水和物、軽質無水ケイ酸、ヒドロキシプロピルセルロースを含有する。

### 2. 製剤の性状

#### (1) 顆粒の性状

本品は淡黄褐色～褐色の顆粒剤で、ほとんどにおいがなく、味は極めて苦い。

#### (2) 分包品の表示

識別コード: TM-15

## \*《効能・効果》

比較的体力があり、のぼせがみで顔色赤く、いらいらする傾向のある次の諸症:

鼻出血、高血圧、不眠症、ノイローゼ、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、湿疹・皮膚炎、皮膚掻痒症

## 《用法・用量》

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

## 《使用上の注意》

### 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

著しく体力の衰えている患者〔副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。〕

### 2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- (2) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

### 3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

#### (1) 重大な副作用

- ① 間質性肺炎: 発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。
- ② 肝機能障害、黄疸: AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

③ 腸間膜静脈硬化症: 長期投与により、腸間膜静脈硬化症があらわれることがある。腹痛、下痢、便秘、腹部膨満等が繰り返しあらわれた場合、又は便潜血陽性になった場合には投与を中止し、CT、大腸内視鏡等の検査を実施するとともに、適切な処置を行うこと。なお、腸管切除術に至った症例も報告されている。

#### (2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 <sup>注)</sup>	発疹、蕁麻疹等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等

注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

### 4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

### 5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

### 6. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない。]

## 《取扱い上の注意》

- 薬の品質を保持するため直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しい所に密栓して保管してください。
- 本品は吸湿し易いので、分包に際しては防湿性に優れた分包フィルムを使用してください。
- 天然物を成分としていますので、若干色調の異なることがあります。効果には変わりありません。

## 《包装》


500g  
2.5g×300包

## 《主要文献及び文献請求先》

文献請求先

東亜薬品株式会社 安全管理部  
〒939-3542 富山県富山市水橋開発277番10  
TEL 076-478-5347 FAX 076-478-5348

発売元

 **松浦薬業株式会社**  
名古屋市長区大高町寅新田36

製造販売元

 **東亜薬品株式会社**  
富山県富山市水橋開発277番10